

第2章 「ふじの教育」の基本理念

1 「ふじの教育」基本目標

令和4年度からの10年間を計画期間とする「第六次富士市総合計画」では、私たちの暮らしとともにある富士山に見守られながら、市民一人ひとりが自らの希望を実現し、いきいきと輝けるまちを築いていくため、本市のめざす都市像を「富士山とともに 輝く未来を拓くまち ふじ」とします。

本市のめざす都市像を踏まえ、未来を拓くまちづくりに寄与する人材を育てるため、「ふじの教育」の基本目標を次のように定めます。

「ふじの教育」基本目標

あす ひら
明日を拓く 輝く「ふじの人」づくり

令和の時代を迎え、人口減少や少子高齢化に伴う社会構造の変化、技術革新やグローバル化のさらなる進展により、予測困難で複雑な社会変化への対応が求められる時代となっています。

国が提唱するSociety5.0*³と呼ばれる目指すべき未来社会では、今までにない新たな価値を生み出すことで、様々な課題や困難を克服することが期待されています。このような世の中では、多様な人々と協働して困難な課題の解決を図り、自らが社会と主体的に関わることで、未来を切り拓く力が求められます。

また、持続可能な開発目標（SDGs）*⁴では、「誰一人取り残さない」社会を目指しています。市民一人ひとりがいきいきと輝けるまちを築くために、生涯にわたって地域絵がかりで学びを深めることができる環境づくりが必要です。

このような社会の中においても、新しい未来、輝く明日を自ら創り出し、輝いている人、そんな「ふじの人」を育成することが、「ふじの教育」の目標であります。

生涯を通じた学びにより、個性を尊重し、多様な生き方や価値観を認め、人とのつながりを大切にして、より良い社会、持続可能な社会の創り手を育成します。

*³ Society 5.0…サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、国の第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

*⁴ 持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）…2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている、2030年を期限とする17の国際社会全体の開発目標のこと。「誰一人取り残さない（no one left behind）」社会の実現を目指し、先進国も含めて国際社会全体で取り組むこととされており、社会のあらゆる主体が積極的な役割を果たすことが期待されている。

2 目指す「ふじの人」

本市には、世界文化遺産である富士山の麓に住む市民が、朝に夕に仰ぎ見る富士の姿に学び、住みよい郷土をつくっていくための指針として、昭和58年11月1日に制定された富士市民憲章があります。

前文と5つの条文から成り、前文には全体の理念を、条文では「福祉助け合い」「自然保護・環境美化」「教育文化」「勤労・家庭健康」「公德心・平和安全」の5つの条文からなり、市民としてあるべき行動目標を盛り込んでいます。

市主催の行事では、市民憲章の唱和が行われるなど市民にも親しまれており、まちづくりの指針を表した市民憲章は、“まちづくりは人づくり”の言葉のように、人づくりにも通じています。

教育委員会では、この富士市民憲章の精神を生かしながら、本市の教育の基本理念として、今後10年間の目指す「ふじの人」を次のように描いていきます。

明日にむかって

- 思いやりの心を持ち 共助しあえる人 (共助)
- 自然や社会環境を大切にす人 (環境)
- 広い視野を持ち 学び続ける人 (学び)
- 仕事に励み 健やかな生活を送る人 (健康)
- 平和で安全安心な社会を創ろうと行動する人 (平和)

【参考資料】富士市民憲章

富士に生きるわたくしたちは、歴史と伝統をうけつぎ、明日にむかって、豊かな産業と文化のまちづくりをすすめるため、

1. 富士山のように 広く 思いやりの心を持ち たがいに助け合います
1. 富士山のように 美しく 自然を愛し きれいな環境をつくります
1. 富士山のように 高く 教養を深め 視野のひろい市民となります
1. 富士山のように たくましく 働くよろこびをもち 健康な家庭をつくります
1. 富士山のように 強く 正しく きまりを守り 平和で安全な社会をつくります

○思いやりの心もち 共助しあえる人

思いやりや共助の心とは、人とのかかわりを大切にする精神です。人は、様々な人からたくさんの愛情を受けることで、親や家族、友達、地域の人たちを信頼し、思いやる心を育み、助け合い、協働していきます。そして社会や地域に貢献する人に育ちます。

人とつながり、様々な考え方に触れ、新たな価値を見出していくことは、この多様な社会を生きていくうえで重要なことです。生涯を通じた学びにおいても、仲間と交流したり、自分が学んだことを社会や他者の幸福のために活用したりすることが大切になってきています。主体的に協働し、地域貢献する市民を支え、共助の心を育みます。

○自然や社会環境を大切にする人

世界文化遺産富士山の麓に位置する本市は、富士山からの豊かな水の恵みを受け、工業を中心として産業が発展してきたことから、美しい環境と豊かな生態系を維持することはとても大切です。動植物や四季折々の富士山の景色に触れ、様々な自然体験を重ねながら、美しい環境を次世代につなげることのできる人を育てます。

また、環境問題の解決は、持続可能な開発目標（SDGs）においても重要な位置を占めています。地球温暖化、異常気象、自然災害など、地球規模から身近な地域までの環境問題を主体的に考え、行動していかなければなりません。学校教育や社会教育を通じて、市民が持続可能な社会を維持するために環境を大切にする心を育てます。

○広い視野もち 学び続ける人

学びを深め、様々な文化に触れることは、人間形成の核となるところです。子どもは、常に好奇心をもって事物に働きかけ、多くのことを理解し、学ぶ楽しさを味わうようになります。また、様々なものやこととの出会いをきっかけに夢や希望をもち、それに向かって学んでいく中で、視野が広がり、自己肯定感が育まれます。

社会に出ても、仕事や趣味の中で目標をもって学び続け、それぞれの分野で自信を深めていきます。生涯を通じた学びにより培われた知識や技能を、社会や地域に還元し、次世代につなげることのできる人を育てます。

地域コミュニティの維持・活性化に貢献し、地域社会の一員としての社会参画のため、社会変化に対応した学習機会を提供する重要性が、更に高まっています。市民が主体的に学び、「いつでも、どこでも、何度でも」学べる環境を整えていきます。

○仕事に励み 健やかな生活を送る人

社会に生きるすべての人にとって、互いの人格を尊重し支え合いながら、社会で自らの役割と責任を果たし働くことや、地域に貢献し生き生きと活躍していくことが重要です。また、社会の中で生きる喜びを感じ、前向きに生活するためには、身体の健康も大切です。子どもは、身体を動かす楽しさや仲間と運動する楽しさを味わいながら成長し、心身ともに健康な大人になっていきます。そして、高齢社会の今、生涯にわたってスポーツに親しむことや適切な食生活を心がけることは、健やかな生活を送るうえでも重要です。

家庭・職場・地域等の社会のなかで自分の役割を持ち、心身ともに健康を意識して仕事や生活を送ることで、豊かな人生を過ごすことができます。

○平和で安全安心な社会を創ろうと行動する人

誰もがルールを守り、安心して暮らすことのできる社会づくりは、市民にとって最も重要なことです。子どもたちの遊びの中でもルールがあり、それぞれが約束やルールを守ることによって、お互いの信頼関係が生まれ、社会生活が成り立ちます。一人ひとりがしっかりと規範意識を持つことで、基本的な生活習慣が身についた家庭、安全・安心な学校や地域が形成されていきます。平和で安全な社会を維持し、次世代に伝えていくことのできる人を育てます。

そのため、社会全体に関心を持ち、自らの判断や行動が、安全で安心な社会、平和な社会を創るという意識づくりが重要です。多様性が尊重され、一人ひとりの人権を守ることが大切にされる今だからこそ、常にルールやマナーを意識し、守ることの重要性を経験することが大切です。その主体的に考え行動した経験を積み重ねることによって、社会の一員として自覚し、平和で安全・安心な社会の醸成につながります。

3 「ふじの教育」基本方針

目指す「ふじの人」を育成するために、次の基本方針を定めて「ふじの教育」を進めていきます。

「ふじの教育」基本方針

一緒に学ぶ 一生学ぶ

教育にとって大切なことは、自ら問いを持ち、主体的に判断し、多様な人たちと協働しながら新たな価値や技術を創造する力を育み、自らの人生をたくましく切り拓いていく力を育てていくことです。この力を育むためには、主体的に学びに向かう力を備え、人生の各ステージに応じて、多様な人々と交流して様々な立場や考え方があることを学び、互いの良さや違いを認め合う態度を育成することが重要です。そして、自分と社会との関わりを見つめ、自己の役割や責任を果たす態度を醸成することが肝要です。

これからも、学校、家庭、地域など社会全体の**横の連携（一緒に学ぶ）**を推進するため、関係するそれぞれが連携を深め、教育効果がより向上するような環境づくりに努めます。

また、学びは、学校教育のみで完結するのではなく、生涯を通して学び続けることで、より一層深い学びとなります。Society5.0を迎える今、社会の変化に対応した学習機会の提供が、更に重要になります。すべての市民が主体的に「いつでも、どこでも、何度でも」学び続けることができる**縦の接続（一生学ぶ）**を整え、生涯にわたって楽しく学ぶ環境をつくれます。

4 計画の体系イメージ

富士市のめざす都市像（第六次富士市総合計画）

富士山とともに 輝く未来を拓くまち ふじ^{ひら}

「ふじの教育」基本目標（第二次富士市教育振興基本計画）

あす^{あす} 明日を拓く 輝く「ふじの人」づくり^{ひら}

目指す「ふじの人」 富士市民憲章の精神をもとに、目指す「ふじの人」を次のように定めます

明日に向かって

- 思いやりの心を持ち 共助しあえる人 （共助）
- 自然や社会環境を大切にする人 （環境）
- 広い視野を持ち 学び続ける人 （学び）
- 仕事に励み 健やかな生活を送る人 （健康）
- 平和で安全安心な社会を創ろうと行動する人 （平和）

「ふじの教育」基本方針 目指す「ふじの人」を育成するために、基本方針を次のように定めます

一緒に学ぶ 一生学ぶ

学校、家庭、地域など社会全体の横の連携を推進し（一緒に学ぶ）、すべての市民が主体的に「いつでも、どこでも、何度でも」学び続けることができる縦の接続（一生学ぶ）を整え、生涯にわたって楽しく学ぶ環境をつくります。

教育振興の基本施策 具体的な施策を次のように定めます

3つの施策方針のもと、12の施策の柱と32の具体的な施策を体系的に位置付けます。